

砂質系建設発生土を利用した流動化処理土の現場製造工法 コンパクトなプラントで転圧・締固め不要な埋戻し材料の連続製造を実現

調査・設計・解析技術

施工・材料

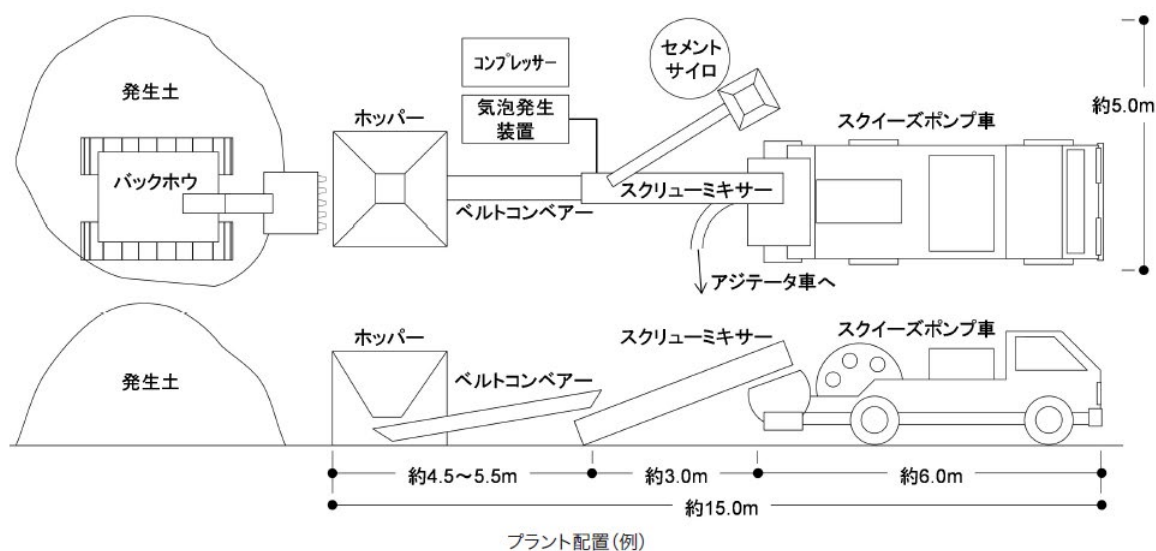
安全・環境

お客様のメリット

- 建設発生土を処分せず、埋戻し材料として再生利用することが可能です。
- 現場設置型のコンパクトなプラントによって、工期・工費の削減が可能です。
- 配合・施工管理の工夫によって、石炭灰・スラグの利用も可能です。

技術の特徴

TAST工法は、砂質系建設発生土の処理・再利用を、特殊連続ミキサーや起泡剤の利用で容易に行えるようにした工法です。一般的な流動化処理土に比べて、プラント面積は1/2以下と小さく、都市部の狭隘な現場でも利用が可能です。製造される流動化処理土は、強度を調整でき、転圧・締固めが不要の埋戻し材料として利用できます。



流動化処理土のフロー試験状況



製造状況

実績・事例

都営地下鉄12号線工事
西新宿第一工区建設工事
環状部新宿・大久保工区建設工事 他



▲プレスリリースはこちら